

市川市議会では、年4回の各定例会で、交渉会派(所属議員3人以上の会派)ごとに市長提出議案等その他市政全般について問う代表質問を行います。6・9・12月定例会における各会派の発言時間は、原則3日間の総会議時間を、会派数及び会派の所属人数に応じて割り振って決定します。質問は総括質問者が行う他、補足質問者を立てることができます。ここでは、会派が指定した項目の質問・答弁を要約して掲載しました。
 ※9月定例会の代表質問は9月2日に通告を締め切り、9月6日から3日間の日程で行いました。

代表質問

公明党



西村 敦 小山田なおと
(補足質問者)
 川畑いつこ 浅野 さち
(総括質問者)
 久保川隆志 中村よしお
 宮本 均 大場 諭

ユニバーサルシート

問 市の公共施設では、バリアフリー化を進めているとのことだが、新たに建設する斎場、八幡市民交流館、妙典こども地域交流館におけるバリアフリートイレ内には、障がい者等がおむつ交換等に利用できる折り畳み式ベッドであるユニバーサルシートを設置するのか。

答 斎場においては、障がい者等が利用できるバリアフリートイレに、ユニバーサルシートやベビーカー等を設置する。八幡市民交流館と妙典こども地域交流館のバリアフリートイレについては、ユニバーサルシートは設置しないが、車椅子での利用に十分な広さを確保するほか、ベビーカー等を設置する予定であり、障がい者等、誰もが安全で快適に利用できるよう、バ



障がい者等がおむつ交換等に利用できるユニバーサルシート

避難場所・避難所の整備

問 市境の住民から、自助のために緊急的に避難する場所である避難場所や一定期間滞在する施設である避難所について、住居に近い他市の避難場所等を利用したいとの声を聞くが、他市の避難場所等を利用できるか。また、車椅子利用者等からは、まず、中学校等に開設する一般の避難所に避難するのはなく、可能であれば障がい者等に配慮した福祉避難所へ直接避難したいとの声を聞く。そこで、一般の避難所での車椅子利用者対応と福祉避難所との同時開設について問う。

答 本市は近隣市と災害時の相互応援協定を締結しており、市境の住民は相互扶助の観点から他市の避難場所等を利用できる。また、車椅子利用者対応としては、体育館内のトイレの使用が困難な場合、校舎内の車椅子用トイレを使用してもらうとともに、市は協定事業者等から車椅子用の仮設トイレを調達していく。福祉避難所の同時開設は、同避難所の受け入れ対象者を事前に調整する等の課題があるため、関係部署と協議し、その体制を準備していく。

新斎場の整備

問 開設から44年が経過した現斎場は、火葬炉の性能劣化に加え、バリアフリー化が不十分である。現斎場の建て替えは、公算型フロア方式で事業者を選定しており、今後、設計業務を開始することだが、新斎場の整備概要及び事業者の提案内容について問う。

答 新斎場は現斎場の待合棟と式場棟の位置に建設する。施設面では、火葬件数の増加に対応するため、現在10炉で1日15件行っている火葬を12炉で1日最大33件まで可能とし、待合室も6室から12室に増やす。家族葬等の増加に対応するため、小規模の式場も3室から4室に増やすほか、バリアフリー対応の施設とする。事業者の提案としては、JR市川大野駅と新斎場を定時で無料送迎するなど、遺族等に寄り添うサービスの提供というものがあつた。

クーリングシエルター

問 本市では、熱中症予防のため、危険な暑さから避難できる場所として公共施設をクーリングシエルターに指定し、エアコンの未設置世帯にも利用を案内して

創生市川



小泉 文人 ほどたけうな
(補足質問者)
 国松ひろき 大久保たかし
 石原たかゆき 稲葉 健二
(総括質問者)
 加藤 武央 岩井 清郎

親子交流支援事業

問 離れて暮らす親子が定期的に会って話したり、一緒に遊んだりして交流し、つながりを保つことは、子どもの権利であるだけでなく、子どもの健やかな成長に寄与するものと考えられる。船橋市では、親子交流を実施する際に、親子交流支援事業者を利用した場合、その費用の一部を補助しているとのことであるが、本市における親子交流支援は、どのような状況であるのか。

答 本市は令和6年度当初予算において、親子交流支援に係る予算を措置している。支援の実施方法については現在調整しているところであり、行政としての関わり方や利用者の利便性などを踏まえ、最善の制度となるよう準備を進めていく。

防犯行政

問 市は、令和5年度から自治会によるカメラ付き防犯灯の設置に対し補助を行っているが、設置数は想定よりも伸び悩んでいるとの

永井荷風文学賞

問 市は、市制施行90周年を記念して、本市ゆかりの作家で、名誉市民の文豪、永井荷風の名を冠した「永井荷風文学賞」を創設し、その運営は、永井荷風が初代編集主幹を務めた文芸誌『三田文學』を発行する三

市川市の歴史年表

問 令和6年7月2日、アイ・リンクタウン展望施設において、「市川市のあゆみ」と題した、高さ3.3m、全長18mもの大きな歴史年表の除幕式が行われた。この年表は2人の市民からの寄付金により設置が実現し、市川の子もたちが過去を学び、未来を夢見てほしいという趣旨があるとのことだが、市はこの年表をどのように活用していくのか。

答 6年秋より、この年表と考古博物館、歴史博物館を巡り、それぞれでスタンプを押し、それをICHI COを進呈するスタンプリーを実施する予定である。また、市内の小中学校等に対しては、既にこの年表についての案内をしているため、同秋以降の校外学習などにおいて活用されるものと考えている。更には、国府サミット開催時の見学先の一つとしても検討している。今後も、小中学生や市民に、市川の歴史に関する取り組みを実施していきたい。



アイ・リンクタウン展望施設に設置された市川市の歴史年表